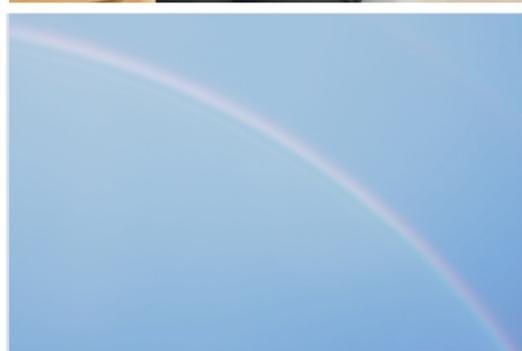


どこでも、誰にでも、最良のアレルギー医療を



アレルギー疾患療養指導士

Clinical Allergy Instructor CAI

■ ご案内

CAIの育成・養成・認定を行います

CAI（アレルギー疾患療養指導士：clinical allergy instructor）は、アレルギー診療の専門知識と技量を備え、医師と協同して適正なアレルギー診療・患者指導を行うコメディカルスタッフです。全国のアレルギー診療均てん化*と充実のために、医療チームの一員として活躍することが期待されています。CAI認定機構は、このCAIを育成・養成・認定することを目的に設立されました。

*均てん化：全国どこでも誰でも標準的、良質な医療が等しく受けられること。

皆さんとともに歩む組織です

CAI認定機構は資格の認定だけでなく、皆さんとともに活動する組織です。ご入会いただくとeラーニングなど教育資料の無料視聴が可能であり、またアレルギーについての重要な情報をメールまたは定期刊行物で受けとることができます。受験に当たっては当機構が公認するセミナーを受講して頂きますが、参加費は割引きとなります。CAI認定試験に合格すると、継続的に自己啓発、会員相互の啓発に努めることができ、資格の更新・維持にお役立ていただけます。

ぜひ多くの方に機構の会員となっただき、認定制度を安定して支えとともに、CAIの社会的認知度の向上にコミットしていただきたいと思います。

CAI理事長挨拶

一般社団法人日本アレルギー疾患療養指導士認定機構

理事長 勝沼 俊雄

一般社団法人アレルギー疾患療養指導士認定機構は2020年（令和2年）5月に設立されました。CAIは、喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、花粉症を含むアレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患の管理や治療に関する専門知識をもち、指導スキルを兼ね備えたコメディカルスタッフの認定資格です。医師と協同してチーム医療を行うことで、標準的で良質なアレルギー医療を国民に提供します。アレルギー疾患は単に薬を処方するだけでは良くなりません。患者さんが正しく継続して使うことで初めて薬の効果が発揮されます。患者さんや家族に寄り添い、薬の使い方などのセルフケアをサポートするのがCAIの役割です。

いま、日本人の半数以上が何らかのアレルギー疾患に悩んでいます。CAIの活躍によって、日本全国どこでも誰でも良質なアレルギー医療を受けることのできる環境が整うことを強く願っています。

幅広い事業を展開しています

CAI認定機構では、その目的を達成するために、次のような事業を行っています。

1. アレルギー疾患療養指導士の育成・養成・認定
2. アレルギー疾患療養指導士の育成のための研修会、講習会、講演会などの開催およびその計画
3. アレルギー疾患療養指導士の認定試験の実施、資格認定にかかわる業務
4. 認定者登録名簿の管理と更新業務
5. 国内外の関連団体などとの連携
6. ホームページの作成、更新、運営
7. その他、この機構の目的達成に必要な事業



CAIの将来ビジョン

これまでの合格者は、2021年（令和3年）度に584人（CAI1期生）、2022年（令和4年）度に223人（CAI2期生）、2023年（令和5年）度が239人（CAI3期生）で、合計1046人の有資格者が誕生しています。

今後、5～10年かけて全国で1万人以上の認定を目指してCAIの育成を図っていきたく考えています。そしてこの間、CAIと医師が協同したアレルギー診療によってどれだけの患者さんや家族が救われるのか、種々のアレルギー疾患についてさまざまな視点（疾患の軽症化、QOL、医療費など）から検証し、データ（数値）として示していきます。CAIの使命や存在意義を科学的データに置き換えることはとても重要です。そして、CAIと医師がチームで行うアレルギー診療に対して、正当な診療報酬が認められるよう力を尽くしていきます。診療報酬の裏付けにより、CAIの価値と重要性はますます高まるものと考えます。

CAIとは、専門知識を有し、指導スキルを兼ね備えた コメディカルスタッフです

CAI（アレルギー疾患療養指導士）は、喘息やアトピー性皮膚炎などアレルギー疾患の治療や管理に関する専門知識を有し、患者さんや家族への指導スキルを兼ね備えたコメディカルスタッフです。

必ずしもアレルギーが専門ではない医師と協同してチーム診療を行うことにより、標準的で良質なアレルギー医療を国民に提供する資格です。

CAIは医師の治療を補完し、患者さんや家族と直接かかわることで、国民の健康に寄与します。

日本人の半数が悩んでいるとされるアレルギー疾患について、誰でも、どこでも良質なアレルギー医療を受けることのできる仕組みと資格がCAIです。

いくら良い薬が処方されても、正しく服薬されなければ、 効果は現れません

日本人の半数以上がアレルギー疾患に罹患していると推測されています。アレルギー治療薬は大いに進歩していますが、いくら良い薬が処方されても、正しく服薬されなければ、効果は現れません。たとえば喘息では、いわゆる重症患者の50%以上は適正な吸入指導により軽症化することが知られています。これは小児でも成人でも同様です。つまり本来重症ではない患者さんが、薬の正しい吸入方法を知らないばかりに、いたずらに重症化している実態があるのです。

アトピー性皮膚炎では、正しいスキンケアの方法や外用薬の塗り方を知らなければなりません。アレルギー性鼻炎では正しい鼻噴霧がなされないと良くなりませんし、花粉症の場合、上手に花粉を避けないと症状は良くなりません。

食物アレルギーにおいては、患者さんや家族に正しい知識を身につけて頂かないとアナフィラキシーの危険にさらされることになります。また、このような確認と指導を十分に行うためには、患者さんに寄り添い共感する姿勢が大切であり、CAIの重要な務めです。

「アレルギー疾患対策基本法」で謳われる アレルギー医療の均てん化と育成

ありふれたアレルギー疾患に対して、アレルギー専門医の地域偏在、地域格差が問題となっています。東京都のアレルギー専門医数を1とした場合、0.5に満たない地域がいくつもあります。このような現状を踏まえ、「アレルギー疾患対策基本法」という法律が2014年に制定されました。この法律ではアレルギー医療の均てん化を重要視しており、「国は、アレルギー疾患に関する学会と連携協力し、アレルギー疾患医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師、薬剤師、看護師その他の医療従事者の育成を図るために必要な施策を講ずる」ことが謳われています（第三章 第二節 第十六条）。どの地域においても標準的なアレルギー診療が受けることができる均てん化を実現するためには、アレルギー専門医の育成だけでは不十分であり、CAIの育成が必要と考えます。そしてCAIの理念とアレルギー疾患対策基本法の理念は、完全に合致しているといえます。



CAI資格を持って活躍している方のインタビュー

地域のエピペン®講習会で広がるCAIの活動

芳賀赤十字病院小児科（栃木県真岡市）

CAI 1期生

看護師 深谷亜矢さん

国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患を有しています。自分1人では何もできないではなく、自分から動き出すことが大切だと思います。アレルギー疾患とともに生活をする方々を支援するCAIの仲間になりませんか？



深谷亜矢さんは現在、小児科外来を中心に勤務しており、他の看護師と分担して「アレルギー指導外来」を行っています。

かつて、深谷さんはこのアレルギー指導外来の立ち上げにかかりました。「薬を処方するだけではなく、具体的なアドバイスをすれば患者さんはもっと良くなるのに」との思いから、医師に自ら「スキンケア指導をやら

せてください」と申し出ました。そこからアレルギー指導外来の開設につながっていきました。

CAIとしての活動は地域にも広がっています。それが「エピペン®講習会」です。現在、アレルギー専門医2名とCAIの看護師8名、栄養士7名が協力し、幼稚園や保育所、小中学校を回ってエピペン®の指導を行っています。

こうしたCAIの活動が、地域のアレルギー疾患対策を大きく前進させています。



多くの薬剤師にCAIという“得意分野”を持ってほしい

さくら薬局春日部藤塚店（埼玉県春日部市）

CAI 1期生

薬局薬剤師 神山めぐみさん

CAI有資格者が毎年増えていっています。同じ方向を目指すチームのメンバーとして活動できることを嬉しく思いますし、仕事へのモチベーションも高まります。「仲間がいるっていいなあ」とつくづく感じています。

神山めぐみさんは、埼玉県春日部市の小児科・アレルギー科「おかだこどもの森クリニック」に隣接する「さくら薬局春日部藤塚店」の管理薬剤師です。

薬局薬剤師になる前は、大学病院の小児科で病棟薬剤師として25年間勤務していました。

もともとの専門である小児のアレルギー診療の経験をバックボーンに、

CAIとして成人も含めたアレルギー疾患の幅広い知識を身につけ、地域のアレルギー患者さんや保護者への服薬指導を行っています。

神山さんは「かかりつけ薬剤師」としても活躍中。休日や夜間などの時間外も、患者さんから電話で薬についての相談を24時間対応で受けています。

さらに、近隣の学校薬剤師を務め、

地域のアレルギー科講習に奔走し、小児科夜間救急事業にも協力。多忙な毎日でもなんのその。ライフワークとして患者さんと保護者をサポートしています。

小さな子でも本人にケアの仕方を伝える

小児科・Sunny キッズクリニック（埼玉県川口市）

CAI 1期生

薬剤師 石黒奈緒さん

働く環境や職種はさまざまでもアレルギー診療に携わるコメディカルスタッフとして「患者さんの力になりたい」と願う気持ちは同じだと思います。CAIとしてみなさんの活躍の場がさらに広がっていくことを願っています。



千葉県流山市にある小児アレルギー領域の地域基幹病院をホームグラウンドにしている石黒奈緒さん。縁あって、Sunny キッズクリニックでもアレルギー指導を行うようになりました。アレルギー疾患をもつ子どもへのアドバイスはともすると保護者、主に母親へ向けてのものになりがちです。

でも、石黒さんの指導のスタンスは「たとえ小さな子でも本人に伝える」ということ。小さいうちはケアの主体が保護者でも、やがてセルフケアが必要な時期を迎えます。だから、乳幼児の頃から、いずれやって来る移行期を見すえて指導することを大切にしています。

石黒さんは保護者へのメンタルケアにも心を砕いています。アレルギー疾患をもつ子の親の大変さを知っているからです。子どもと家族が楽しく豊かに「生活」できるように——そのことを指導の基本に置いているそうです。



食物アレルギーの子をもつ親の悩みに寄り添う

公立昭和病院（東京都小平市）

CAI 1期生

管理栄養士 猪瀬佳代子さん

職場では他職種のCAIと連携して食物アレルギーの患者さんとご家族をサポートしています。研修会参加の機会も増えて自己啓発にも繋がっています。アレルギー医療を支えるチームの一員としてCAIを取得して一緒に活動しませんか。

猪瀬佳代子さんの管理栄養士としてのキャリアは18年。現在、小児科で食物アレルギー患者さんのサポートを受け持っています。主な仕事は、食物経口負荷試験の結果や聞き取りに基づいた栄養食事指導です。東京都アレルギー疾患専門病院（小児科領域）である公立昭和病院では年間100件前後の負荷試験が実施され、猪瀬さんは3日に1回の

ペースで負荷試験後の栄養食事指導に入っています。食物アレルギーへの対応は乳幼児期では保護者が中心。とくに母親の心理的負担は大きく、その悩みに寄り添うことも栄養管理を担うCAIの大切な役割だと思います。同院では、地域の子どもの預かる施設の職員を対象に食物アレルギーの

講習会やセミナーを開催しており、猪瀬さんはここでもCAIとしての専門性をいかに発揮しています。

CAI資格を持って活躍している方のインタビュー

患者さんを継続的にサポートする存在として

キラリこどもクリニック（東京都世田谷区）

CAI 1期生

看護師 君島美雪 さん



CAI は、患者さんのみならず、アレルギー疾患に携わる医療チームにとって身近な拠り所となる存在だと思います。CAI として活動することで自身の臨床実践がより広がり、医療の質の向上につながります。皆さんが私たちの仲間になることを楽しみにしています。

君島美雪さんは東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科に20年在籍し、現在は小児科クリニックに勤務しています。

大学病院時代はアレルギー疾患全般の患者さんの教育支援や看護に携わり、アレルギー看護外来の開設にもかかわりました。現在はアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、喘息の患者さんへの教育支援・看護、食物

経口負荷試験や生物学的製剤治療を受ける患者さんへの看護と支援を行っています。

クリニックでは、かかりつけとなる患者さんへの継続的な支援を行うことでラポール形成ができ、患者さんと家族が参画した治療やホームケア支援を行う場面が増えました。

CAI としての実践は大学病院もクリニックも基本的に変わりはなく、知識

や技術を講習等でアップデートしながら、患者さんを主語とした支援・評価・チーム医療を常に心がけているそうです。

CAIマップ

CAI が在籍している病院・クリニック・薬局などの医療施設を探すことができます。詳細は下記 QR コードからご確認ください。

CAIマップへ



SEARCH FROM A NATIONAL MAP



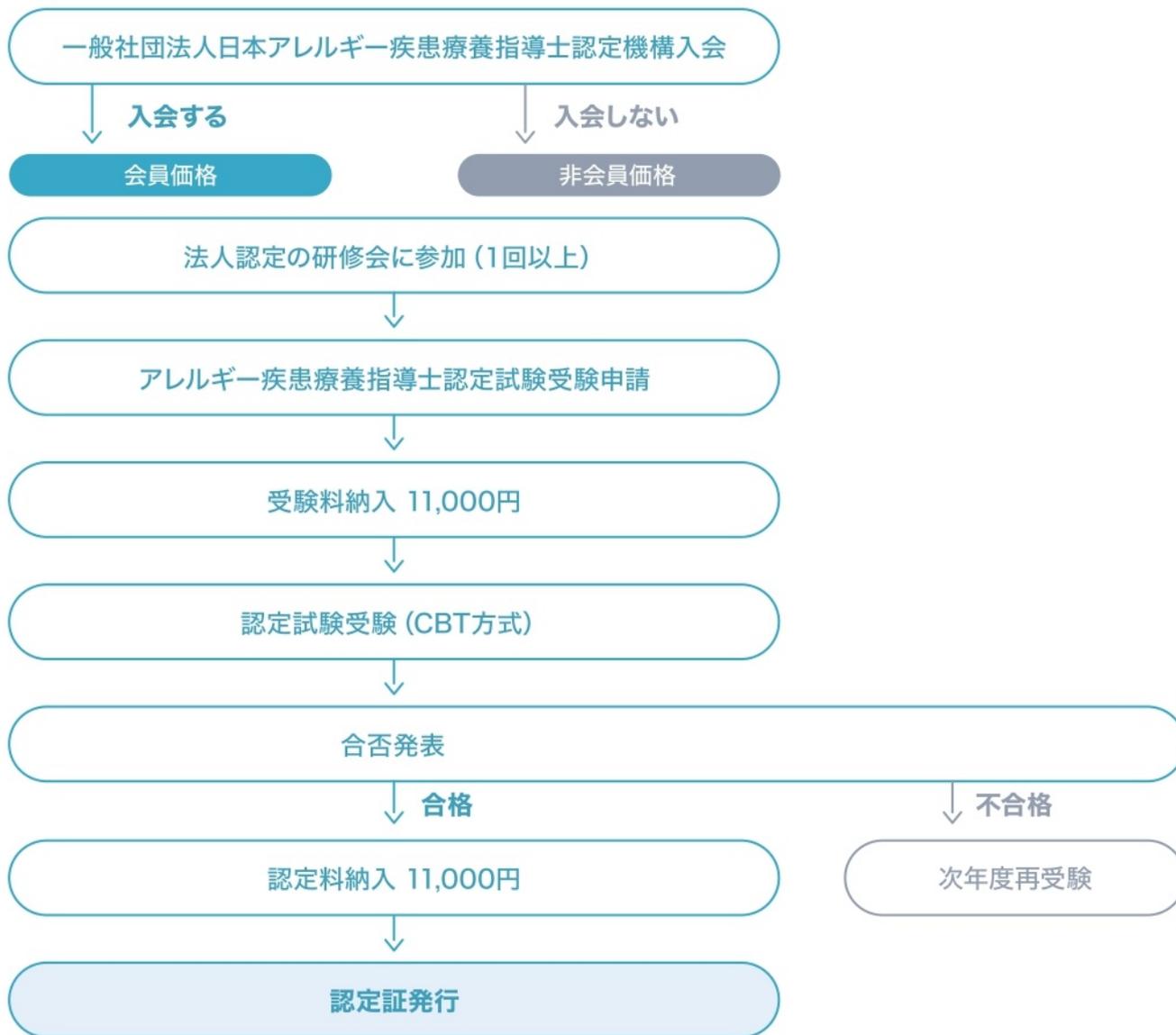
研修会出席の上で受験手続きをしてください

CAIの認定は2021年（令和3年）度からスタートしました。

認定資格は研修会（CAI研修セミナー）に参加した上で、認定試験を受験して合格することで取得できます。

受験までの流れは、研修セミナー出席後にCAI認定機構ホームページから「CAI受験申請書」をダウンロードし、必要事項を記載して認定機構まで「郵送」にて受験申し込みを行います。さらに、受験資格審査後に届く受験資格通知メール（Webから受験を申し込むときに必要な識別番号の情報を含みます）の内容にしたがってお手続きください。

試験はCBT方式（コンピュータを利用して実施する試験方式）で行います。1か月の試験期間内の日時を選択して全国で受験することができます。合否は試験終了後に通知します（その場で確認できます）。



受験資格

- ① 看護師（准看護師）、薬剤師、管理栄養士の資格を有すること
- ② 上記の資格を有して週38時間45分以上かつ2年以上の勤務経験があること注1）
- ③ アレルギー、内科（認定内科医を含む）、小児科、耳鼻科、皮膚科、眼科専門医のもので研修、診療にかかわったことがあること注2）
- ④ CAI研修セミナー（年1回開催）に1回以上参加していること（ただし受験年から2年遡ったセミナーまで適用されます）
- ⑤ アレルギーに関連する症例10例とその10例の中で詳細な記載を加えた1例を提出すること

注1：①②を満たしていれば、現在の勤務状況は問われません。

注2：薬局薬剤師においては当該医師の処方箋を応需して患者指導を行っているものを含みます。

2022年2月19日改定

FAQ

Q1

会員、アレルギー疾患療養指導士（CAI）受験に年齢制限はありますか？

A1

年齢制限はありません。

Q2

対象の職種が看護師（准看護師）、薬剤師、管理栄養士となっておりますが、他の職種、例えば視能訓練士や臨床検査技師は対象外となるのでしょうか？

A2

アレルギー疾患療養指導士の対象職種は、看護師（准看護師）、薬剤師、管理栄養士です。
今後対象を広げてゆく可能性はありますが、現時点では上記3職種です。

Q3

更新制度があるのでしょうか？

A3

5年ごとに更新があります。指導実績が問われますが、職場の異動があっても更新できるよう、たとえば講習と小テストによる代替オプションを検討しています。

Q4

研修会について教えてください。

A4

当機構公認の研修会（セミナー）は1月～2月中の開催を目標としてスケジュールを立てています。
その他、深掘りセミナー、オンラインカンファレンスも開催しています。
2024年からは、毎年『CAIカンファレンス』（学会における学術大会のような大規模な集会）を開催いたします。

Q5

認定試験について教えてください。

A5

毎年6月1日から6月30日を試験期間としています。また再試験も行っていて、7月中に実施期間を設けています。
試験方式はCBT（Computer Based Testing（コンピュータベースドテスト））を採用しており、試験期間中は好きな日時と場所を選んで受験できます。試験情報は随時メールやホームページを通してご提供します。
なお、受験条件として当機構公認の研修会『CAI研修セミナー』の受講が必須です。

Q6

アレルギー疾患療養指導士（CAI）は、成人、小児のアレルギー全般に対する資格ということですが、試験内容としては、協和企画社出版の「アレルギー総合ガイドライン 2022」に掲載されている様な内容になりますか？

A6

『アレルギー疾患療養指導士認定試験ガイドブック（メディカルレビュー社）』がCAIの公式のテキストです。
総合ガイドラインを超える内容にはなりません。しかし、たとえば「患者指導」は総合ガイドラインでは必ずしも強調されていないと思いますが、CAIにとっては非常に重要な事項となります。このように両者には必ずしも一致しない点があるという事をご理解ください。

Q7

資格取得までにかかるおおよその費用を教えてください。

A7

当機構公認の研修会『CAI研修セミナー』会員8,800円（税込）/非会員14,300円（税込）、認定試験受験料11,000円（税込）
認定料11,000円（税込）です。
また、CAIの公式テキスト「アレルギー疾患療養指導士認定試験ガイドブック（メディカルレビュー社）」4,500円（税別）があります。
CAI認定試験は、このガイドブックに沿って出題されます。



一般社団法人
日本アレルギー疾患療養指導士
認定機構
Japan Certification Board of Clinical Allergy Instructors

〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科医局内

ホームページは
こちらより▶



紹介動画は
こちらより▶

